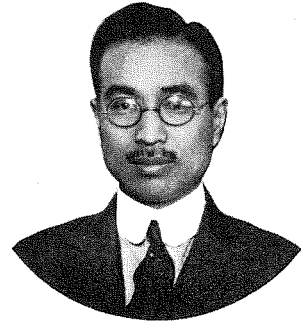


港灣工學の新人

工學博士 鈴木雅次氏



内務技師 工學博士
鈴木雅次

Dr. Masaji Suzuki, the Engineer
of the Department of Interior,
Who Received Doctor's Degree Recently.

J O A Kで港灣の話をしてから新博士鈴木雅次氏の名は幾分か社會的に知られた事と思はれる。

曾て八、九年前或る學會の講演會で記者は氏の北米カナダに於ける運河工事の報告を聞いた事があります、其時に傍の某先輩は氏が数字的な記録を明確にテキバキこ述べるのに感心してゐられました、大概の場合は誰もが数字の記録は卓上のノートを度々見るものですが、鈴木氏は殆ん卓上を見ずに講演を終りました。講演の態度も實に元氣なもので流暢に要領を得たものでありました。其時から私達は我技術界の爲めに或一の新しい力を感じてゐました。

それから暫らく氏の動靜を聞きませんでした、大震災後の横濱港復舊工事は内務省關係の工事としては未曾有の敏速なものでした、其時の工事經營の組織は今更ら申上げる迄ありませんが、新人技術家を以て最も能率的に活潑な大工事を實施されたものでした、鈴木氏は其時第一工場の主任であつたと思ひます。其後利根川改修工事、横利根閘門工事等に關係されましたが、何れも純土木のジミな工事で餘りに知られませんでした。

今回の工學博士としての學位論文はカルバートの構造論で、其設計には専ら彈性基礎の理論を用ひられたものであります。氏は別にたいしたもの無いと申されますが、偶然にも之に依つて目下治水工學上の重大問題たる暗梁横龜裂の問題を解決せらるゝ結果となつたのは近代工學上の一大貢獻であります。其

外に氏は大正十一年頃すでに跳開橋に就ても相當の研究を纏めてをられます、我國に於ての跳開橋即ちバスキユールは近頃漸く認められて來ました、民間の山本卯太郎氏が現に實行運動の第一線に立つてゐます。

現在鈴木博士は内務省の第二技術課に在て専ら港灣工事の設計に従事されてゐます。

尚ほ鐵道省工務局、陸軍省參謀本部等の港灣事務にも當つてゐられます。

氏の伏木港の設計の如きはエスチュアルハーバーとして最も新味あるものさされてゐます。

氏に就て其趣味の豊かな事は又特異の一點であります、ピアノと浪花節を好み、油畫と漫畫に長じ、此のコントラスの妙は氏が温厚なる紳士である事に依り一層の親しみを與ふるものであります。